

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



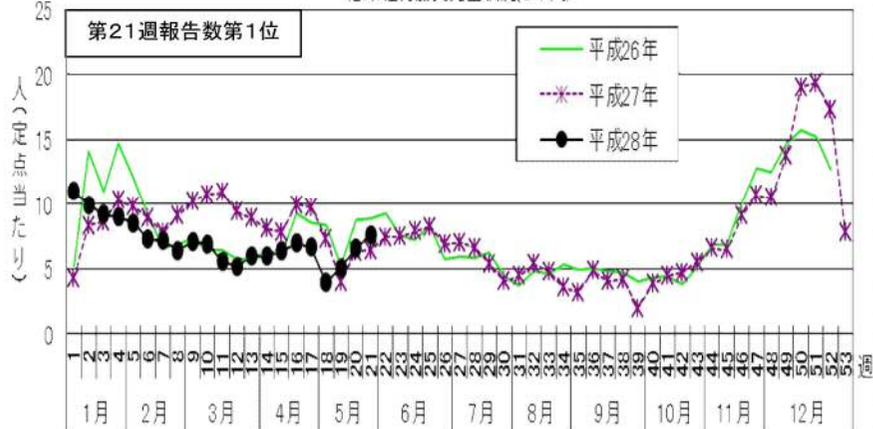
KAWASAKI CITY



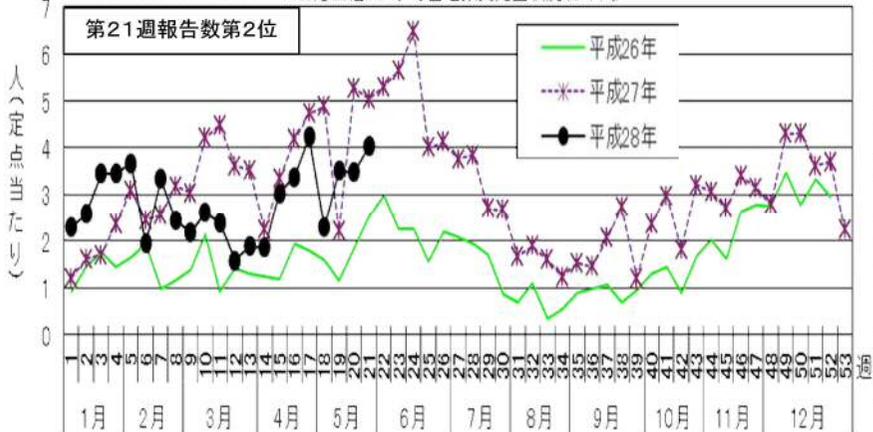
平成28年5月23日（月）～平成28年5月29日（日）〔平成28年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)突発性発疹でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.62人と前週（6.57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.03人と前週（3.49人）から増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。突発性発疹の定点当たり患者報告数は1.16人と前週（0.84人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



～知っていますか？突発性発疹～

突発性発疹はヘルペスウイルス6型または7型のウイルスを原因とする疾患で、ほぼすべての小児が3歳までにかかります。

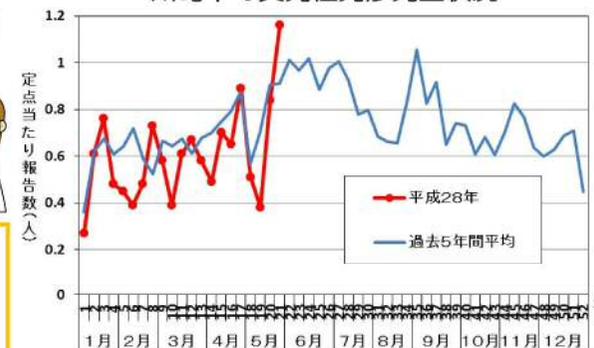
年間を通じて大きな変動は見られませんが、今年は川崎市における平成28年第21週（5月16日～22日）の定点当たりの患者報告数が1.16人と大幅に増加しました。



突発性発疹の特徴は？

- 潜伏期間：約10日
- 感染経路：家族など成人の唾液に含まれるウイルスによる感染
- 好発年齢：6ヶ月～1歳半
- 症状：突然の高熱が3日間程度続き、解熱とともに発疹が出現（体幹部・顔面・四肢）します。おおむね経過は良好ですが、熱性けいれんや、まれに脳炎等の合併症がおこることがあります。
- 治療法：特別な治療はありません。

川崎市の突発性発疹発生状況



平成25～27年川崎市突発性発疹年齢別発生状況（市内定点医療機関からの報告数）

